

宮の森

発行元・白鳥神社総代会

本殿鞘堂前面お化粧

本殿正面鞘堂の柱に錆が浮き、塗装が剥がれて醜いものになっていった。一年前の宮の森 一十号で、塗装工事を格安にとお願いした所、9号組三日会が、自力でやってみようと申し出て頂きました。四月下旬に、足場を組み取り掛かり、サンダーで腐食部分をそぎ落とし、速乾性のさび止めを塗り、その日の内に、表面塗装まで行い仕上げました。メンバーの中には、その道に心得のある人もおられ、手際よく施工されました。

足場材料と塗料は㈱テラキチ様が無償で提供いただきました。労務費は三日会のボランティアと言う事で、美しく仕上がりました。コロナ禍の真っ最中でしたが、それをものともせず作業していただき感謝の上もございませんでした。因みに本殿の左右にある石灯籠は八十年前、白鳥三日会が寄贈されております。土台に当時のメンバーが彫られております。ご照覧ください。



後記の拝殿塗装共々、作業して頂きました三日会のメンバーは、餌取正一、清水弘、松井利憲、足立好教、野々村茂樹、白井幸夫、寺田吉幸、曾我毅、藤沢一貴、猪俣和隆、神社阿側から正者憲次と二役の計十四人が一日、奉仕をいただきました。有難うございました。(敬称略)



拝殿のお化粧

最近、拝殿全体が黒ずんで、やや風化の気配がして居りました。今回、取敢えず腰壁から下を洗濯して、防腐剤を塗布してみようと思ひ実行。洗濯は小型の高圧洗浄機を試したら、その効果は肉眼で鮮明に判った。埃状の垢がごびりついていたので、洗浄したら、鮮やかな木目が現れた。数日、乾燥期間を置いて、色付きの防腐剤を塗布しました。高圧洗浄機は九号組総代の足立好教さんが提供。防腐剤の塗布作業は、九号組三日会のメンバーと総代二役が頑張りました。令和を迎えて初のお化粧で、以前より黒みがかった色に仕上がりに、風格が出た感じで見違える程の姿になりました。



常夜灯

白鳥神社本殿左右に一对の石灯籠がある。造られたのは、昭和十五年、皇紀2600年。今年で

丁度80年になる。製作者を見ると、白鳥三日会とある。そのメンバー十九名の名が彫られている。中には一、二名知っている人もある。ご存命ならば百二十歳前後の方だろうか。歴史を感じる。

白鳥九号組に「三日会」と言う会がある。先輩「白鳥三日会」にあやかり、何かをやるうと企んだ。昨年は伊勢湾台風六十年の節目だった。隣接するひばり町と言う集落が流されて七名の方が犠牲になった。それを忘れない様にと「不忘の碑」を自治会と共に建立した。そのメンバーの一人の足立好教氏が、もう一つ別の事を企んだ。前記、神社の石灯籠の灯りを付ける部分が破損している。それを修繕して、中に灯明を灯す事を考えた。まず四面の窓枠を新たに作り、ガラスをはめ込んだ。昔はその中にもろろそくを灯したのでろう。ローソクは簡単だが、とても毎日とは続かない。

そこで文明の利器を思い付いた。小さなソーラーパネルの太陽光をと考えた。これならば、暗くなれば自動で灯る。電気代無料！貧乏神社に何と優しい自然のひかり！朝まで煌々と灯り、本殿を照らし、守ってくれる。これぞまさしく「常夜灯」！

現在は本殿の両脇に一对灯る。この次は本殿前の灯籠一基にも取り付ける予定。この灯籠は、一百年前の江戸時代に建てられたもの。勿論、電気のない時代に出来たモノ。二百年の時を経て、新しい時代の灯が灯る。建てた人は想像だにできなかった光が輝く。



足立氏には、これを無償でやって頂いている。四墓の石灯笼も、それぞれ無償で寄進されたもの。連綿と繋がる「善意のひかり」と言える。尊い光だ！

四月度初宮参り

暖冬化と思いきや、花冷えのする四月五日、四名の赤ちゃんが元氣にお参り頂きました。最初は五名の申し込みでしたが、コロナが怖いと言う事で、一名欠席されました。四名のお母さんにお願ひしました。あなた達は、世界中がコロナで、大変な時に生まれたのよ、この先、何物にも耐えられる様な人になって下さいねと話してやって下さい、と。



西杉山裕樹・輝 長男・緋禾 君(高鷲)
小椋晴夫・夏菜子 長男・丈 君(為真)
尾藤湖斗・天音 長男・永真 君(那留)
稲葉真一・みゆき 次女・ゆい ちゃん(白鳥)

拜殿踊り・白鳥踊り・発祥祭

白鳥神社で初めて発祥祭が行われた。白鳥踊りの発祥は白鳥神社とされてきた。境内の入り口には、その碑が建立されている。その碑文には、「盆中御宮にて踊り申事」云々と古文書に明記されており、白鳥踊りは拜殿踊りが原型で、それはお宮で踊られたとある。

故に、ここが発祥の地と思われる。しかし、発祥祭は今迄、何故か神社で行われなかった。町内の各発祥会を持ち回りで行われてきた。

聞くところによれば、白鳥踊りが隆盛を極めたのは、商工会の尽力が多大と言われ、勢い街中で賑々しく発祥祭を執り行った。それが賑わいの伝統となり、発祥の地は忘れ去られたようでした。加えてその発祥祭に、神社関係者のお声係はありませんでした。

発祥祭の何たるかを考え、忸怩たる思いでした。

今年、コロナ禍で白鳥踊りは全部中止となりましたが、せめて発祥祭神事だけでも行つては、と言う声が高まり、神事を重点に神社で行う事となりました。

併せて、コロナの沈静化を神に願ってほしいと……。コロナ禍による緊急避難的に今年だけ神社でやるのか？次年度は元に戻るのかは検討課題とされました。七月十八日午後六時、拜殿で神事に始まり、宝曆義民太鼓、拜殿踊り、白鳥踊りが奉納されました。神事以外の時間はそれぞれが五分程度。幸いに神の御加護か、雨は上がり、しっとりとした雰囲気。

踊の原点にふさわしいものと感じました。踊の原点は悪霊払いであり、その上での、人々の触れ合いである。鎮守の守は元来、人々の集うところ。来年に期待。



稲荷神社例祭神事

今年の春祭りはコロナ禍の為に中止になりました。五穀豊穰、商売繁盛を祈念する神事は、人数を縮小し、役員、関係者、三十五名で稲荷神社参道の戸外で行いました。宮司も祝詞の中に、コロナの早期沈静化を読み込まれ、参加者一同も併せてお祈りを致しました。自粛モードの最中にも関わりませず、一名のみの欠席で挙行出来ました。

御寄進・ご奉仕

一、稲荷神社本殿幕収納箱寄進……………足立好教様

- 一、境内石灯笼光窓枠修繕・支塗装……………足立好教様
- 一、拜殿腰壁下洗濯塗装……………九号組二日会様
- 一、本殿鞘堂前面鉄骨塗装……………九号組二日会様
- 一、右記工事足場材・塗料無償提供……………(株)テラキチ様
- 一、右記作業応援手伝……………正者憲次・川崎弘様
- 一、戦捷記念碑前広場街灯寄進……………稲葉光男様
- 一、タイムカプセル看板修復再生……………内ヶ島朗様
- 一、掲示板補強工……………川崎 弘様
- 一、花壇水遣り……………西村石材、正者憲次様
- 一、花壇花植、除草……………清水妙子・瀬木すみ子様
- 一、新年篝火新作り・杉枝焼却作業……………曾我幸男様
- 誠に有難うございました。

令和二年八月からの主な行事予定

- 新型コロナ禍により予定を大幅に変更いたします。
- 最大のイベントであります秋の例祭は9/19神事のみ開催し、浦安の舞、神楽は一芝のみ奉納致します。
- 8/1……………宮の森23号発行
- 8/2……………宮掃除・腐葉土作り
- 8/16……………神社境内盆踊り〜縮小開催検討中
- 8/17……………拜殿踊り〜中止
- 8/19……………例祭関係者合同会議〜中止
- 9/7……………大神楽稽古始め〜24日稽古納め〜中止
- 9/13……………玉垣完成・竣工式
- 9/19……………午前中〜秋葉神社神事、午後〜白鳥神社神事
- 9/26〜27……………例祭・27日〜28日〜中止
- 10/25……………宮掃除
- 11/3……………初宮神事・七五三神事
- 11/19……………神送り
- 11/23……………新嘗祭・左義長神事

御朱印受付

ご希望の方は0575-8214387 瀬上まで

(文責・瀬木)